

第2回 奈良交通路線バス(ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線)
利用者増加に向けた三者協議概要

日 時 令和5年3月22日(水)午後7時～午後9時

場 所 生駒市北コミュニティセンター セミナー室

出席者 利用者:あすか野7名、白庭台2名、あすか台2名、ひかりが丘1名、他1名

事業者:奈良交通株式会社 4名

行政:生駒市(事業計画課) 3名

話 題 (1)前回の三者協議の振り返り

(2)資料1「第2回ひかりが丘住宅線・生駒ニュータウン線三者協議」説明

(3)路線バス利用促進に向けた意見交換・発表(テーマ別)

(4)今日のまとめと今後について

概 要

(1)前回の三者協議の振り返り

・前回協議概要を報告

(2)資料1「第2回ひかりが丘住宅線・生駒ニュータウン線三者協議」説明

・資料1について説明

・利用促進策のディスカッションの方法について、テーマを設定し、テーマごとにグループ分けし話し合うことに決定

【テーマ1】イベント等による利用促進策(現状から利用者を増やすにはどうすれば良いか)を考える。

【テーマ2】利用者ニーズ等のデータから、どうすればバスを利用するのか考える。

(3)路線バス利用促進に向けた意見交換・発表(テーマ別)

【テーマ1】

・行政から、路線バスと例えば飲食店とのコラボなど、すぐできること、又は時間がかかること、費用をかけてすること、などに分けて議論を進めることで良いか。という旨の発言があった。

・利用者から、CI-CAplus(シーカプラス)で飲食店とコラボするという話は、若者向けだけでなく、年配者向けも例えばスーパーマーケットやお酒を提供する飲食店の特典もあれば良いのでは。という旨の発言があった。

・事業者から、とにかく固定客を増やしたい。そのために魅力を高めるため CI-CAplus(シーカプラス)に特典をプラスできればと考えている。という旨の発言があった。

・行政から、現時点で高齢者に対しては奈良交通のゴールドパスがあり特典もある。中長期的にそれ以外で考えられれば良いのでは。という旨の発言があった。

・利用者から、バス問題を全体で考えたら行政から稲倉、小明町などの方も三者協議に参加してもらいように呼び掛けてはどうか。

・行政から、それはそれで必要なことと思うが、まず、あすか野地区で利用促進を考え行動変容を伴う利用促進策を出してできる施策から実行していくことが必要と思う。という旨の発言があっ

た。

- ・事業者から、あすか野地区だけで収支改善は難しい。沿線の魅力を高めることや車通勤からバス通勤へ転換できないか。という旨の発言があった。
- ・利用者から、中長期的な話になるが、地区の魅力を高めていくことが大事。(現在、あすか野地区は人口が増えている。)という旨の発言があった。
- ・利用者から、100円バスに合わせて、夏休みに総合公園などで陸上やダンスのイベントなどを企画したらどうか。という旨の発言があった。
- ・行政から、100円バスの実施日は人が動くようなイベントに合わせて実施したいと考えており、担当課と調整する。という旨の発言があった。
- ・事業者から、高齢者の運動教室や小学生対象にスポーツ教室を定期的に開催するなど。という旨の発言があった。
- ・行政から、総合公園の活用について、使用状況を確認し、提案にあったことが実現できるか調整したい。という旨の発言があった。
- ・利用者から、生駒駅にバスで行ってもらうにはどうするかを考えるべき。以前は寿大学でも結構バスに乗って行っていたが最近寿大学に入る人が減っている。魅力のある寿大学にしていく必要がある。という旨の発言があった。
- ・利用者から、イベントは単発。買い物は日常的なものなので、バスに乗ったらお得感があるような仕掛けが必要。買い物後にビール飲むと車では行けない。という旨の発言があった。
- ・事業者から、バスに乗ってきたという証明が難しい。CI-CA(シーカ)では証明できない。利用履歴は窓口しか出せない。という旨の発言があった。
- ・利用者から、中長期的な話だが、アプリを開発してほしい。という旨の発言があった。

【テーマ2】

- ・利用者から、一般的に、便数を減らしていくと減らした以上にネガティブな影響が出るのではないか。減便によって収益は上がるものなのか。という旨の発言があった。
- ・これに対して、事業者から、どちらもあるが、30分に1本のバスを1時間に1本にすると路線が将来なくなる可能性もある。減便でかなり効率化できるが、それが何分間隔かは微妙なところで接続する電車などの競争相手を意識して設定している。また、けいはんな線開通後、運賃値下げや生駒駅まで延伸したが、結果便数は維持できなかった。という旨の発言があった。
- ・利用者から、令和2年度に、どうして公共交通を利用しないか生駒市が調査してる。そこでは、バス停間の距離が遠い、便数が少ない等。あすか野では1時間に5本あったが今は2本。これ以上減らされては車利用になる。便数が大事であり、これ以上減らしてほしくない。それを考えて欲しい。という旨の発言があった。
- ・利用者から、現状把握が必要である。どの時間帯の利用が多くて、どの時間帯が少ないのか。少ない時間帯をどうすべきかを考えたほうがいいのか。(平日と休日、朝、昼、夕方以降に分けてみての収支)という旨の発言があった。
- ・事業者から、日々そういうデータを見てダイヤを組んでいる。昼間の利用が少ないからと言って全くなくすることもできない。朝と夕方を減らさないと人件費はほとんど変わらない。という旨の発言があった。

- ・行政から、去年の 9 月以前と 10 月以降に地元の乗車促進でどのくらい効果があったのかわかるといいので、そのようなデータは出せるか。(季節変動もあるのでコロナ前の安定した数値との比較が必要。)という旨の発言があった。
- ・利用者から、交通インフラとして行政が予算を出せない理由は何か。という旨の発言があった。
- ・これに関して、行政から、バスだけに投入するのは難しい。総合的な判断となるので我々だけでは決められない。という旨の発言があった。

(4)今日のまとめと今後について

- ・第 2 回三者協議の内容は市ホームページに掲載することとした。